

第7章 目標値及び施策の達成状況に関する評価

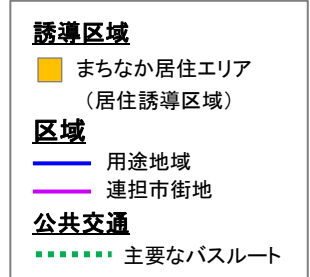
7-1. 目標値の設定

(1) まちなか居住エリア（居住誘導区域）の目標

■現状及び将来予測（社人研「日本の地域別将来推計人口（平成30年推計）」より作成）

まちなか居住エリア全体においては、該当区域 340.40ha にて、平成27年(2015年)時点では、該当区域に人口が 10,808 人含まれ、人口密度は 31.75 人/ha です。しかし、令和22年(2040年)時点には、人口が 7,866 人、人口密度は 23.11 人/ha となります。

また、地域ごとに以下の人口密度となっています。



【高梁地区】	高梁市街地	<ul style="list-style-type: none"> ◇目指す方向性 歩いて暮らせる城下町の情緒が漂うまちづくり ◇面積 181.49 ha ◇人口、人口密度（平成27年(2015年)） 6,815 人、37.55 人/ha 	
	落合市街地	<ul style="list-style-type: none"> ◇目指す方向性 活力ある産業と暮らしが融合するまちづくり ◇面積 85.02 ha ◇人口、人口密度（平成27年(2015年)） 2,112 人、24.84 人/ha 	
【成羽地区】	陣屋町の風格を活かした市西部の拠点となるまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ◇面積 73.89 ha ◇人口、人口密度（平成27年(2015年)） 1,881 人、25.45 人/ha 	

※GISによる計測値

資料：各図とも国交省「国土数値情報」、国土地理院「基盤地図情報」より作成



■目標

地域ごとの人口密度の維持を前提に、まちなか居住エリアについて以下の目標を掲げます。

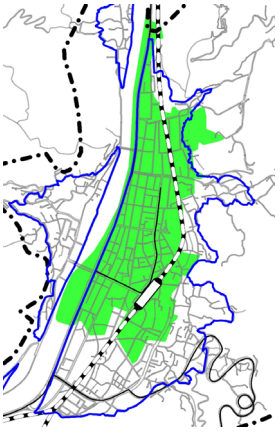
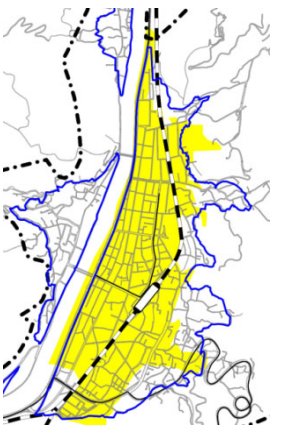
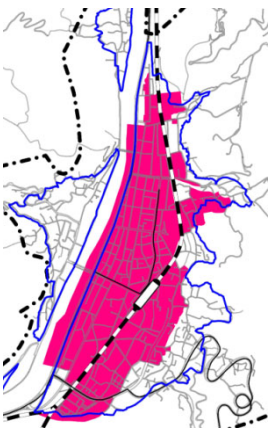
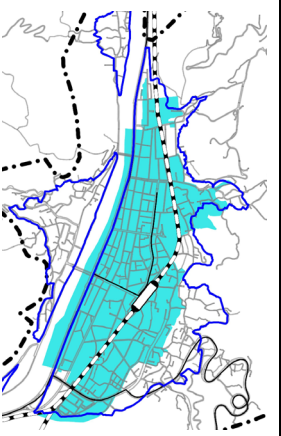
【まちなか居住エリアの目標】

まちなか居住エリア全体では、30人/haの人口密度を維持します。

(2) DID 地区の目標

■現状及び将来予測（社人研「日本の地域別将来推計人口（平成30年推計）」より作成）

DID 地区においては、該当区域 148.3ha にて、平成 27 年(2015 年)時点では、該当区域に人口が 6,060 人含まれ、人口密度は 40.9 人/ha です。しかし、令和 22 年(2040 年)には、人口が 3,714 人、人口密度は 25.0 人/ha となります。

	昭和 45 年(1970 年)	平成 2 年(1990 年)	平成 22 年(2010 年)	平成 27 年(2015 年)
人口	8,129 人	7,445 人	6,427 人	6,060 人
面積	116.4 ha	150.0 ha	143.0 ha	148.3 ha
人口密度	69.8 人/ha	49.6 人/ha	44.9 人/ha	40.9 人/ha
範囲				

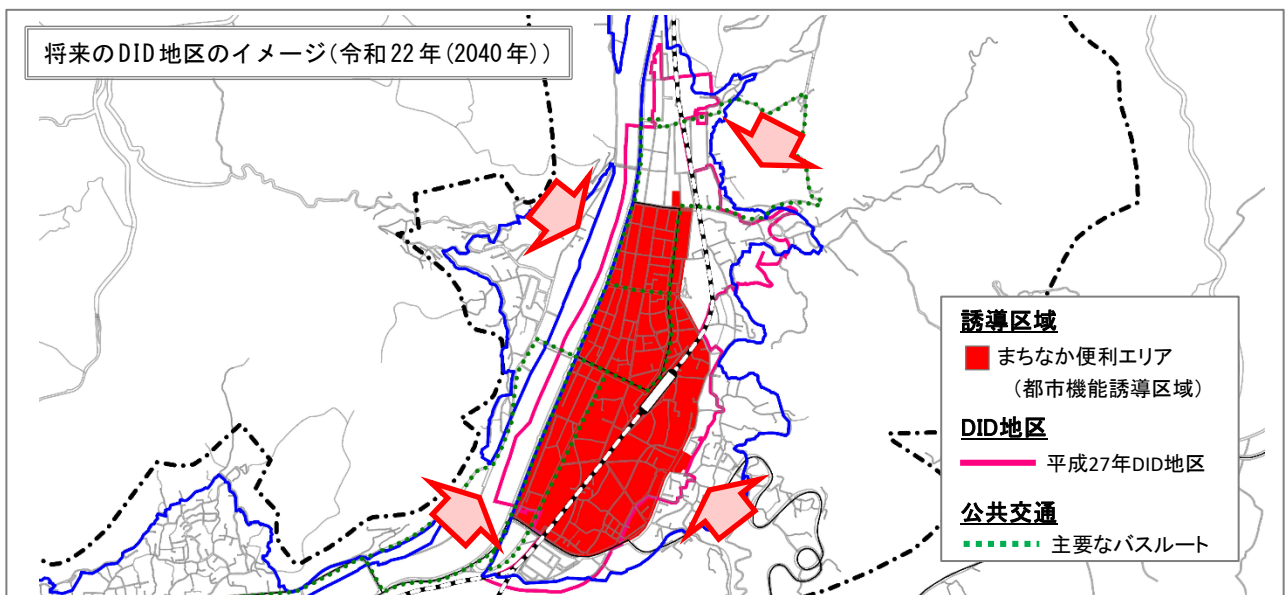
※面積・人口密度は、国交省「国土数値情報」より GIS を用いて算出。令和 22 年(2040 年)人口は、社人研「日本の地域別将来推計人口（平成 30 年推計）」より作成したメッシュ人口を用いて、平成 27 年(2015 年)DID と同じ圏域にて算出。

■目標

本市は、DID 地区は人口誘導において特に重要な区域と考えており、DID 地区について以下の目標を掲げます。ただし、面積はまちなか便利エリアを核に変動があるものとします。

【DID 地区の目標】

DID 地区人口を 5,000 人以上で維持します。

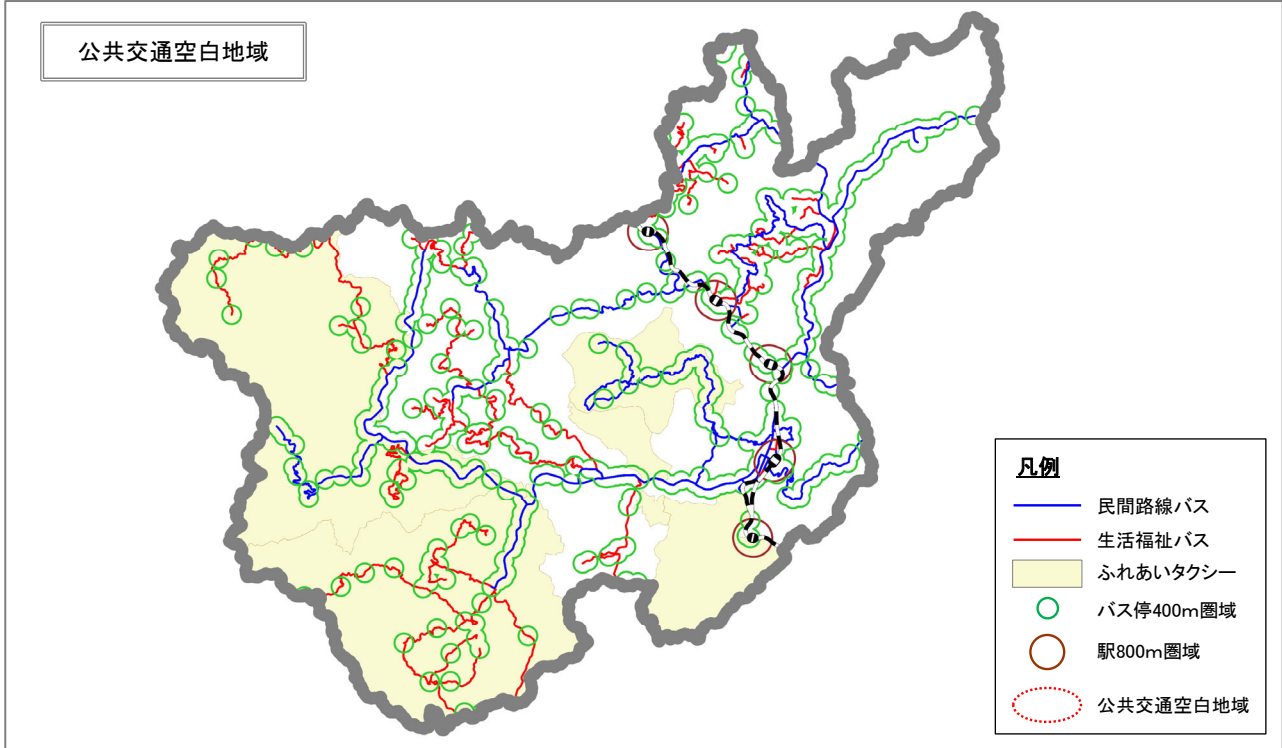


資料：各図表とも総務省「国勢調査」、国交省「国土数値情報」、国土地理院「基盤地図情報」より作成

(3) 公共交通空白地域の目標

■現状

「第2次高梁市地域公共交通網形成計画」において、市内の17%の地域がバス停から400m以上離れた公共交通空白地域となっていることが示されています。



※本計画では、国交省「都市構造の評価に関するハンドブック」に基づいて公共交通利用圏を半径300mとして分析しているが、目標では高梁市「第2次地域公共交通網形成計画」の半径400mを採用する

資料：第2次高梁市地域公共交通網形成計画より作成

■目標

「第1次高梁市地域公共交通網形成計画」の目標を参考に、公共交通空白地域について以下の目標を掲げます。

【公共交通空白地域の目標】

公共交通空白地域の居住人口割合を10%以下にします（現在値17%）。

(4) 目標のまとめ

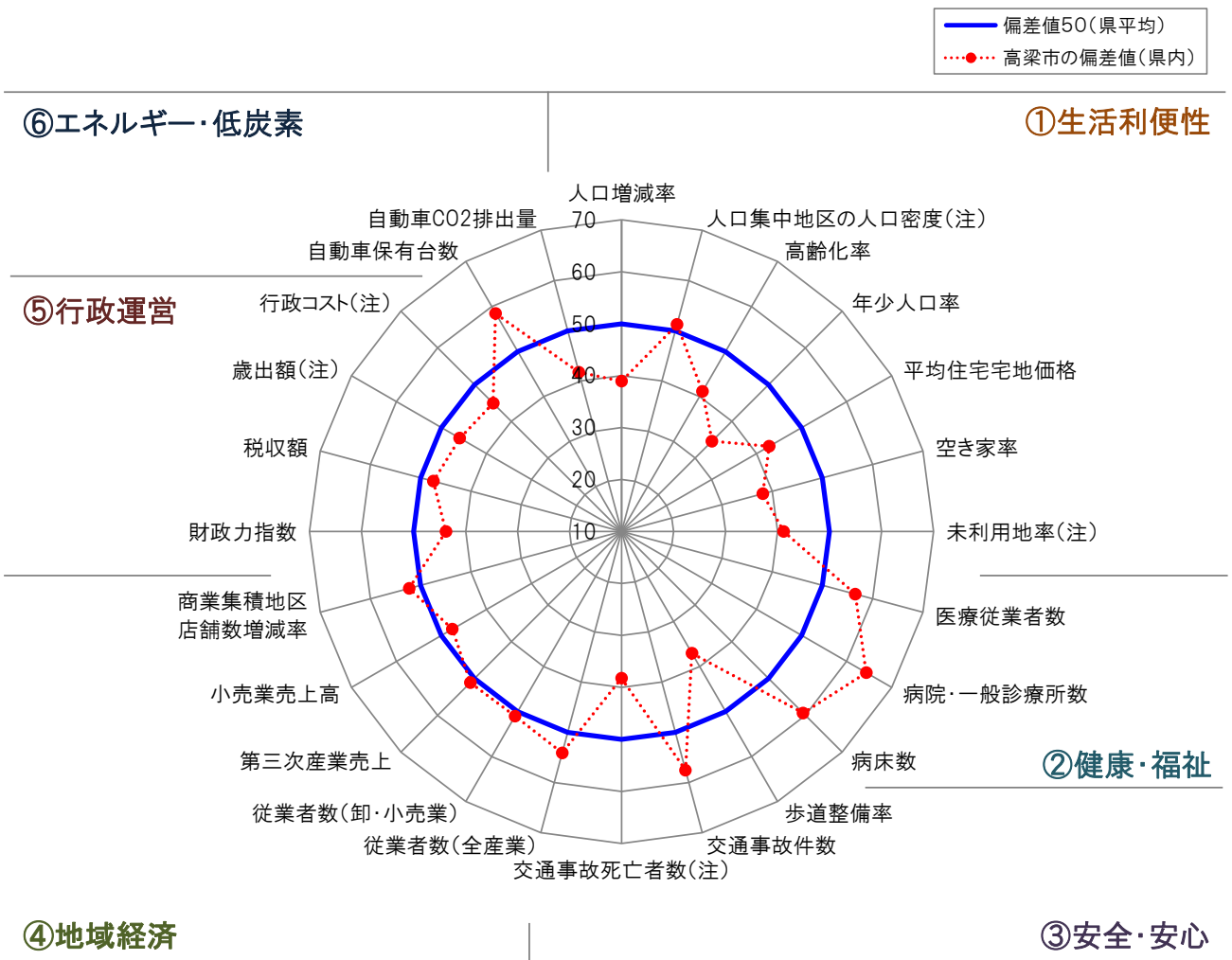
評価指標	現在値	将来推計値 (令和22年 (2040年))	目標値 (令和22年 (2040年))
まちなか居住エリア（居住誘導区域）の人口密度	31.75人/ha (H27(2015年))	23.11人/ha	30人/ha以上
DID地区の人口	6,060人 (H27(2015年))	3,714人	5,000人以上
公共交通空白地域の居住人口割合	17% (R1(2019年))	—	10%以下

7-2. 施策の達成状況の評価について

本計画にかかる施策の達成状況の評価する手法として、国交省「都市構造の評価に関するハンドブック」等を参考に指標を定め、これを定期的にモニタリングすることとします。本市では、①生活利便性、②健康・福祉、③安全・安心、④地域経済、⑤行政運営、⑥エネルギー・低炭素の6つの項目でモニタリングします。

現状では、②健康・福祉、⑥エネルギー・低炭素の項目は県内偏差値が比較的高くなっています。一方で、その他の4つの項目では、県内偏差値が平均または低くなっています。中でも、①生活利便性、③安全・安心は、特に低く、県内でも深刻な状況にあると言えます。

今後、コンパクトシティを推進する上で、概ね5年ごとにこれらの項目を分析し、施策の達成状況の評価するものとします。



(注) 値が小さい方が望ましいと評価する(偏差値が高くなる)項目

※偏差値は、岡山県内市町村との比較で算出しており、県平均が50となる

※未利用地率は、データがある市町村を対象

項目	資料・年度	高梁市の値	単位	県内偏差値
①生活利便性				
人口増減率	総務省「国勢調査(平成 22～27 年)」	-8.26	%	38.9
人口集中地区の人口密度	総務省「国勢調査(平成 27 年)」	41	人/ha	51.2
高齢化率 ^(注)	総務省「国勢調査(平成 27 年)」	38.6	%	41.1
年少人口率	総務省「国勢調査(平成 27 年)」	9.4	%	34.6
平均住宅宅地価格	国交省「土地総合情報システム(平成 27 年)」	9,438	円/m ²	42.8
空き家率 ^(注)	総務省「住宅・土地統計調査(平成 25 年)」	15.6	%	38.1
未利用地率 ^(注)	岡山県「都市計画基礎調査(平成 25 年)」	25.6	%	41.2
②健康・福祉				
医療従業者数	総務省「経済センサス-基礎調査(平成 26 年)」	33.0	人/市民 1,000 人当たり	56.5
病院・一般診療所数	厚生労働省「医療施設調査(平成 29 年)」	1.185	箇所/市民 1,000 人当たり	64.3
病床数	厚生労働省「医療施設調査(平成 29 年)」	22.0	床/市民 1,000 人当たり	59.4
③安全・安心				
歩道整備率	国交省「道路交通センサス(平成 27 年)」	19.5	%	37.1
交通事故件数 ^(注)	岡山県「統計年報(平成 28 年)」	1.93	件/市民 1,000 人当たり	57.6
交通事故死亡者数 ^(注)	岡山県「統計年報(平成 28 年)」	0.094	人/市民 1,000 人当たり	38.2
④地域経済				
従業者数(全産業)	総務省「経済センサス-活動調査(平成 28 年)」	324.5	人/市民 1,000 人当たり	54.1
従業者数(卸・小売業)	総務省「経済センサス-活動調査(平成 28 年)」	58.7	人/市民 1,000 人当たり	51.0
第三次産業売上	総務省「経済センサス-活動調査(平成 28 年)」	11,425	千円/従業者 1 人当たり	51.1
小売業売上高	総務省「経済センサス-活動調査(平成 28 年)」	721	千円/商業面積 1m ²	47.6
商業集積地区店舗数増減率	経済産業省「商業統計(平成 16～26 年)」	-42.7	%	52.3
⑤行政運営				
財政力指数	総務省「統計でみる市区町村のすがた 2018」	0.31		43.8
税収額	総務省「統計でみる市区町村のすがた 2018」	119	千円/市民 1,000 人当たり	47.5
歳出額 ^(注)	総務省「統計でみる市区町村のすがた 2018」	792	千円/市民 1,000 人当たり	45.9
行政コスト ^(注)	総務省「平成 29 年度 統一的な基準による財務書類に関する情報」	726	千円/市民 1,000 人当たり	44.9
⑥エネルギー・低炭素				
自動車保有台数 ^(注)	岡山県「統計年報(平成 28 年)」	389	台/市民 1,000 人当たり	58.4
自動車 CO2 排出量 ^(注)	国交省「道路交通センサス(平成 27 年)」	1,576	kg/市民 1 人当たり	41.8

(注) 値が小さい方が望ましいと評価する(偏差値が高くなる)項目